

アライグマの防除対策等について

(株)野生鳥獣対策連携センター
阿部 豪

1

アライグマの特徴1

- どこでも住める／どこへでも入れる
 - 適応能力が高い
 - 運動能力が高い
 - 天敵動物がない
 - 人間を怖がらない



2

高い運動能力(樹上行動)



関西野生生物研究所 川道美枝子氏提供

3

天敵動物の不在

身体が大きくて強い！



アライグマ

エゾタヌキ

下顎骨



犬歯



4

人間を怖がらない



糞尿汚染、異臭、建物の破壊、感染症・・・

5

アライグマの特徴2

• 深刻な被害を出す

- 集団で行動する
- 何でも食べる
- 食欲が旺盛
- 執着心が強い

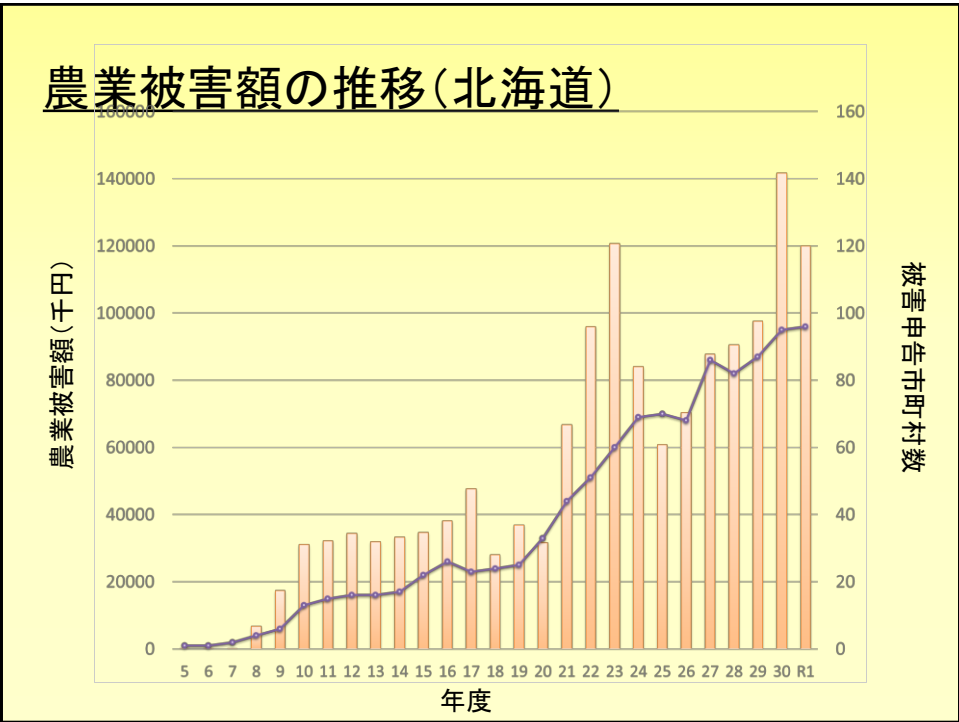


写真提供: 神武海氏



1日で10アールの畑が全滅した例も・・・

6



7

在来生物への影響



キツネと・・・



カエル



水辺の鳥類



サンショウウオ



静岡市提供



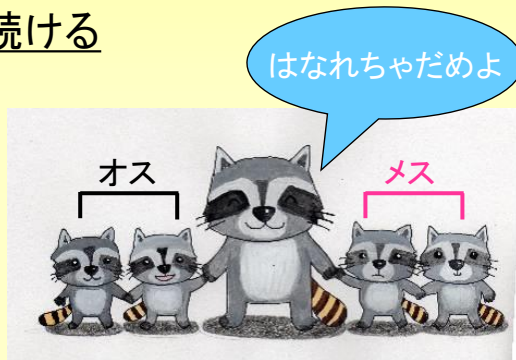
ザリガニ

8

アライグマの特徴3

- 捕らなければ増え続ける

- 繁殖力が強い
- 死亡率が低い
- 行動圏が広い



1年に1度、平均4頭の子を産む

9

アライグマの分布拡大状況(兵庫県)



~1980年



~1985年



~1990年

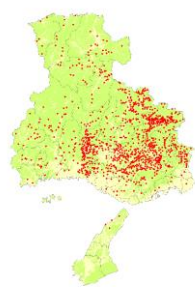


~1995年

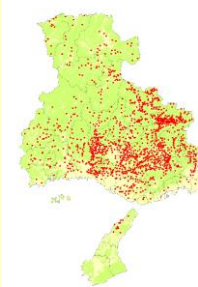
最近10年で、
急激に分布域、
被害が拡大！！



~2000年



~2005年



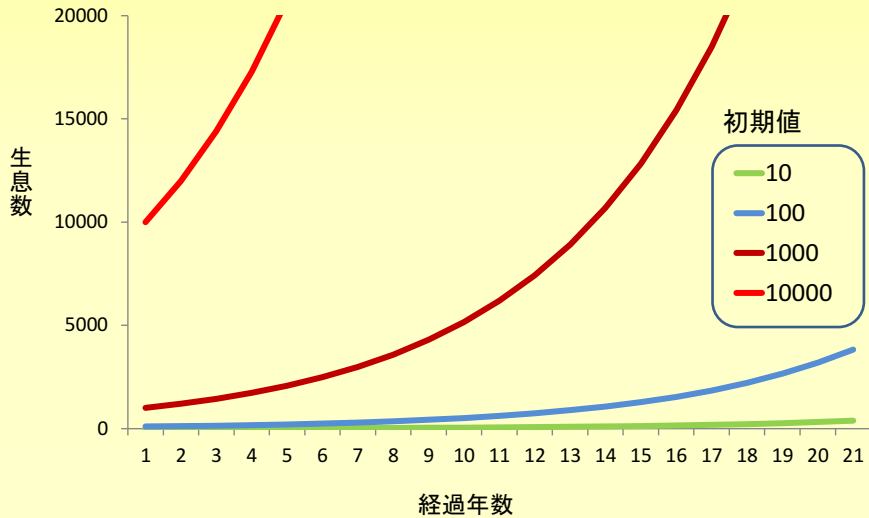
~2010年

森林動物研究センター資料より作成

10

生息数が急増するメカニズム

【自然増加率40%の場合】



11

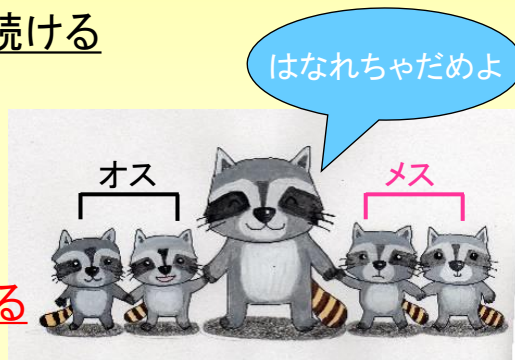
アライグマの特徴3

• 捕らなければ増え続ける

- 繁殖力が強い
- 死亡率が低い
- 行動圏が広い

• 捕獲すれば減らせる

- 捕獲効率は高い



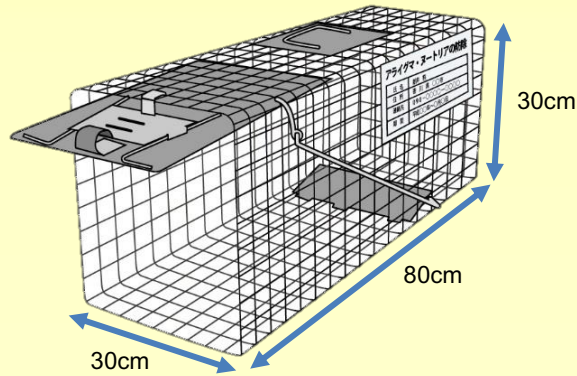
1年に1度、平均4頭の子を産む

12

わな選定のポイント

① 大きさは？

– 30cm × 30cm × 80cm程度で十分



13

仕掛けの種類と仕組み

踏み板式わな



吊り下げ式わな

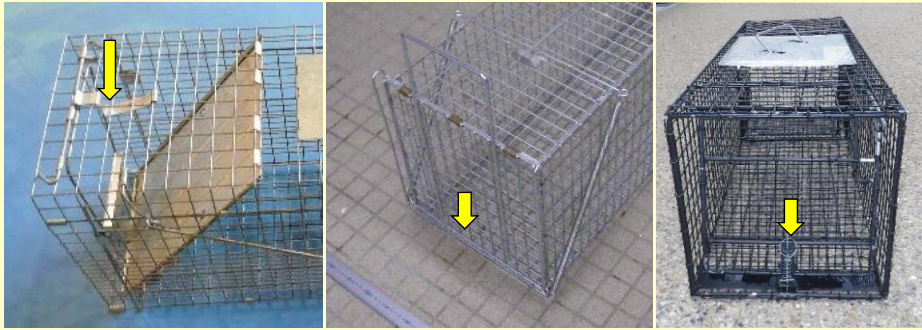


14

わな選定のポイント

②逃走防止機能があるか？

– 捕獲した獲物は逃がさないことが重要！！



15

わな選定のポイント

③強度は？

– 不安な箇所には補強を！



16

捕獲の基本

捕獲の手順

1 場所を選ぶ



2 わなを設置する



3 捕獲を開始する



4 捕獲したアライグマを殺処分する



5 継続して捕獲、または移設・中断する



17

(1) 場所を選ぶ

① 被害、目撃情報を集める

ポイント

今、アライグマがいる場所を見つけること！

確実性の高い情報

- 死体
- 写真
- 足跡
- 食痕

(メロン、スイカ、ブドウなど)

参考になる情報

- △目撃情報
- △被害情報
- △糞、爪痕など

18

写真からわかること



単独か複数か？／成獣か幼獣か？

19

足跡で確認する

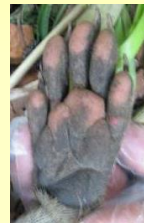
ポイント

特徴的な手足の形と
歩き方に注目！！



←
大きさの異なる
足跡が横に並んでつく

幅3～5cm



前肢の長さ
5cm程度



後肢の長さ
11cm程度

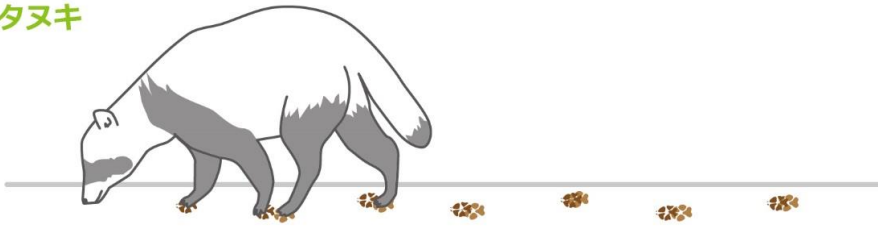
20

歩き方の特徴

アライグマ



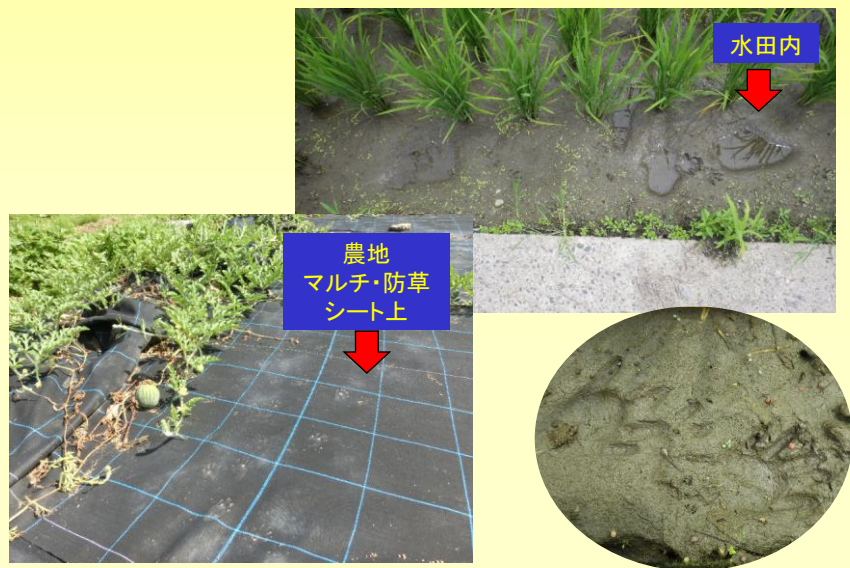
タヌキ



21

水田やマルチシートは、足跡トラップ！

時期や環境によって、探すポイントは異なる！



22

食痕で確認する



ポイント

特徴的な食痕が残る農作物に注目！！



スイカ、メロンなど



直径5cm程度の穴が開く

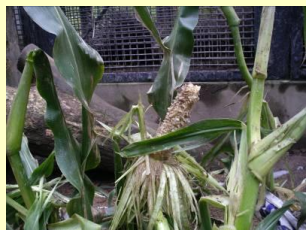
ブドウ



破れたり、引っ張り上げられた袋

23

食痕で確認する(その他の食痕)



24

② 移動ルートを見つける

ポイント



アライグマがよく利用する場所を見つけること！

採餌・移動ルート

○水辺の環境

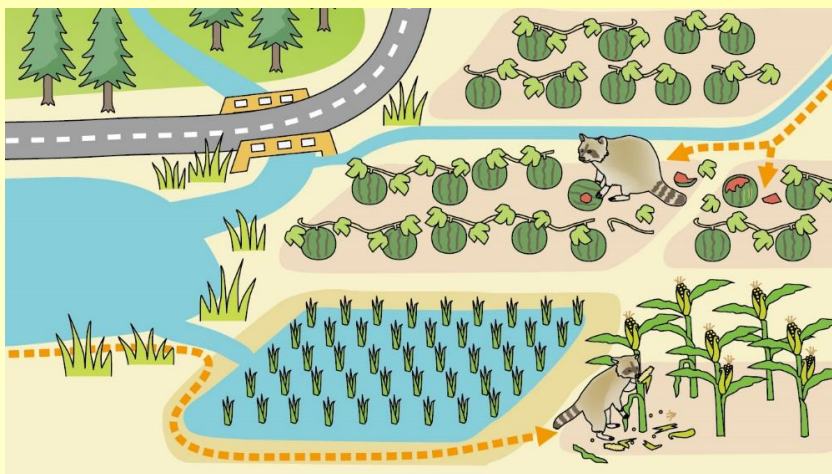
- ・池や川のふち
- ・用排水路
- ・湿地、湿原

○身を隠せる場所

- ・防風林、竹林内
- ・側溝
- ・納屋や畜舎

25

【被害の発生場所と侵入方向の関係】



26

③ 移動ルート上で、
わなの設置に適した場所を探す

ポイント

被害地が、捕まりやすい環境とは限らない！



27

水辺(エサ探索・移動)



水没・流下に気をつけよう



29

林内(移動)



獣道を探そう



他獣種が使うけもの道も利用する

30

人家周辺(繁殖・エサ探索)



捕獲後のことも考えよう



31

農地周辺(エサ探索)



被害を防ぐことが最優先!!



32

物理柵による防除は効果なし



畑全体を覆うと逆効果も...

33

効果的な電気柵の仕様

被害を防ぐことで、捕獲効率は向上する！

■3段張り

■各架線の間隔は10～15cm程度



効果的な柵設置のための
3つの基本ルール！

- 潜り込めるとさせない
- 被害発生前に設置を
- 電気を流さない柵は撤去

34

(2) わなを設置する

ポイント

アライグマが入りやすいように設置すること！

① わな設置前の作業

- けもの道をふさがないように、設置できるか？
- わなは平らに設置できているか？
- わながぐらぐらしないか？
- わなは正常に作動するか？
- わなの周りに汚されて困るものはないか？

35

② わな設置後の作業

- わなの中や前の雑草は除去されているか？
- わなは転倒しないか？

転倒して逃げられたわな



【対策例】



杭



重石

36

③ エサをまく



徐々にわな奥へ誘導するように…
(ステップ式わなの設置例)

- まきエサで捕獲効率UP！
- 捕獲エサは、ステップの奥へ

↓ NHK『ダーウィンが来た』より



37

エサ選びのポイント

- 捕獲実績の高いエサ
 - インスタントラーメン、パン、ドーナッツ、お菓子
 - 配合飼料(乾燥トウモロコシ)、落花生
 - 肉類(から揚げなど)、魚類(にぼし、スルメなど)
 - 果物類(リンゴ、ブドウなど)
- 新鮮なエサを使うこと
 - エサの交換はこまめに！！
 - できるだけ日持ちのするエサを

38

(3) 捕獲を開始する

ポイント

常に捕獲できる状態に保つこと！



<見回りの際のチェックポイント>

- わなは正常に作動するか？
- エサは新鮮か？
- エサは食べられているか？
- 周囲に新しい足跡はあるか？

39

(4) アライグマを殺処分する

ポイント

捕まえたアライグマを逃がさないこと



保管、移動中に逃走されないように！
(扉が開かないように固定)



- わな内を暗くすることで、捕獲した動物を落ち着かせることができる
- 噛まれたり、引っかかれたりしないように注意！
- 速やかに殺処分を！

40



41

(5) 捕獲を継続、または移設・中断する

ポイント

効率的に捕獲を続けること

- わな周辺に、新しい痕跡がある
- 捕獲個体が、子育て中のメスや幼獣



捕獲を
継続!

3kg未満は幼獣

42

寄生虫や病気を運んでいるかも

ジステンパーウイルス、
日本脳炎への感染確認

2008.10.25

朝日新聞記事→

アライグマにウイルス感染広がる ジステンパー半数に

2008年10月25日 19時19分



野生化したアライグマの半数が、野生動物の大変死を招くジステンパーウイルスに感染していることが、山口大学獣医学部の前田健雄教授らの調査で分かった。日本脳炎ウイルスにも7割が感染していた。タヌキなどの動物でも感染が確認され、ペットや家畜、人に影響がないか心配される。26日から岡山県で開かれる日本ウイルス学会で発表する。

前田さんは07年6月から、関西地方で捕獲されたアライグマ104匹の血液を調べると、約半数の54匹でジステンパーウイルスに感染した痕跡が見つかった。タヌキ19匹のうち4匹が感染し、イノシシやシカも感染していた。

ジステンパーウイルスは、呼吸器を介して、主に夫婦の仲間にも感染する。犬が発症すると、致死率は30〜80%と高い。国内ではタヌキが死ぬ例が相次ぎ、世界的にも90年代以降、ライオンやアザラシなどの大変死が見つかっており、野生動物への被害が深刻になっている。人には感染しない。

前田さんによると、アライグマは全国的に増えているほか、行動圏が広いため、タヌキなどの野生動物に広げている可能性があるという。



さらに、雌の出る季節に捕獲したアライグマ68匹のうち、約7割の47匹に日本脳炎ウイルスに感染した痕跡があった。イノシシも36匹中、約6割が見つかった。

日本脳炎ウイルスは、ブタや野生動物の体内で増え、蚊を媒介して人や他の動物に広がる。鳥取県では03年に馬が死んだ。人が感染しても発症しないことが多いが、脳炎になると危険が伴う。患者発生は92年以降、年間10人以下で死者は出ていない。

前田さんは「日本脳炎に感染したアライグマやイノシシが人里に出て、蚊を介して、予防接種をしていない子どもにも感染する危険も否定できない。外来のアライグマは駆除の徹底が必要だ」と話している。(長崎純子)

43

人に感染する病気を媒介することも…

・狂犬病：

北米ではコウモリを抜いて2番目の媒介動物

・アライグマ回虫：

動物園などでは検出されているが、野外では報告無し

・既に国内で検出されている寄生虫、ウィルスなど

レプトスピラ症、アライグマ糞線虫、トリヒナ症、ラアラ胃虫、
日本脳炎ウィルス、鳥インフルエンザウィルス etc.

44

衛生・安全管理のために

- ・ 作業中に飲食、喫煙をしない
- ・ 不用意に捕獲動物に近づかない
- ・ 作業後の手洗い、作業着の洗濯を徹底する
- ・ 作業中に負傷したり、体調不良を感じたら、作業内容を伝えて医療機関を受診すること

45

アライグマ捕獲のポイント(基本)

- その1** わなは十分な強度のあるものを選ぶこと！
- その2** 新鮮で確実な生息情報に基づいた捕獲を！
- その3** わなの設置場所は、水辺が効果的！
- その4** 餌の交換、わなの点検はこまめに！
- その5** 捕まえたアライグマは逃がさない！
- その6** 被害防止対策は、捕獲の効率化にも有効！

46

捕獲の課題解決に向けて (応用編)

47

(1) 捕獲困難個体の存在



48

捕獲困難個体への対策①

横からのエサ盗り、小動物の逃走を防止



目合いを
細かくする

犯人特定にも有効

49

捕獲困難個体への対策②



エサの持ち逃げ防止



エサの固定
重いエサの使用

獣種の判定にも有効

etc.

50

(2) 非対象動物の混獲



- ・捕獲効率の低下
- ・在来生物への負荷
- ・新しい「害獣」の創出

51

混獲への対策①

混獲される鳥獣の種類に応じた工夫

■イタチやネコなどの混獲が多い

- エサを果物(リンゴ、ブドウ、バナナなど)に変更

■カラスなど鳥類の混獲が多い

- わなに覆いをかける(エサが見えないように！)

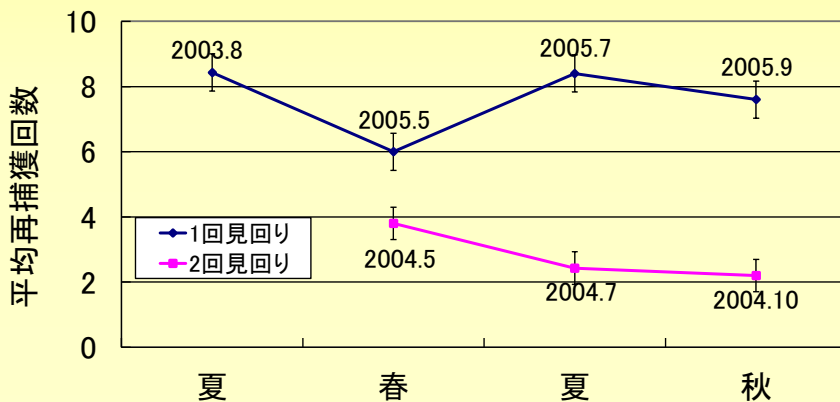
■タヌキやドブネズミなどの混獲が多い

- わなの移設を検討！

52

混獲への対策②

エサ投入時間による工夫(タヌキ混獲対策の例)

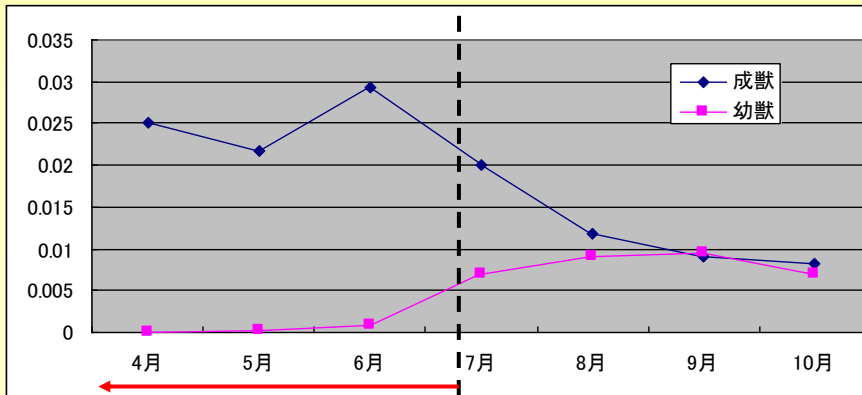


1日2回の見回りをすることで、混獲率は半減した

53

(3) 春季(3~6月)捕獲の推奨

7月以降、成獣の捕獲効率が急落する傾向
6月末頃から、幼獣が巣から出てくる



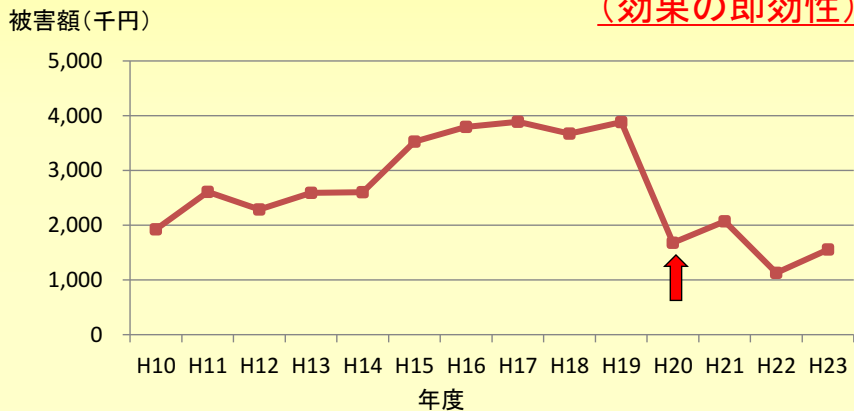
捕獲困難個体の捕獲にも有効

54

事例紹介

農業被害額の激減

春先の捕獲が、同年の作物被害軽減に効果を上げた!!
(効果の即効性)



対策の成果は、確実に実感に変わりつつある

55

捕獲効率が下がってきたら…

生息密度が低下したことで、捕獲初期よりも捕獲が難しくなっている可能性があります



基本を見直し、適切な場所に適切にわなを設置できているか、改めて確認しましょう。

- わなの設置場所は適切ですか？
- わなには新鮮なエサが入っていますか？

※加害動物がアライグマではない可能性も検討しましょう

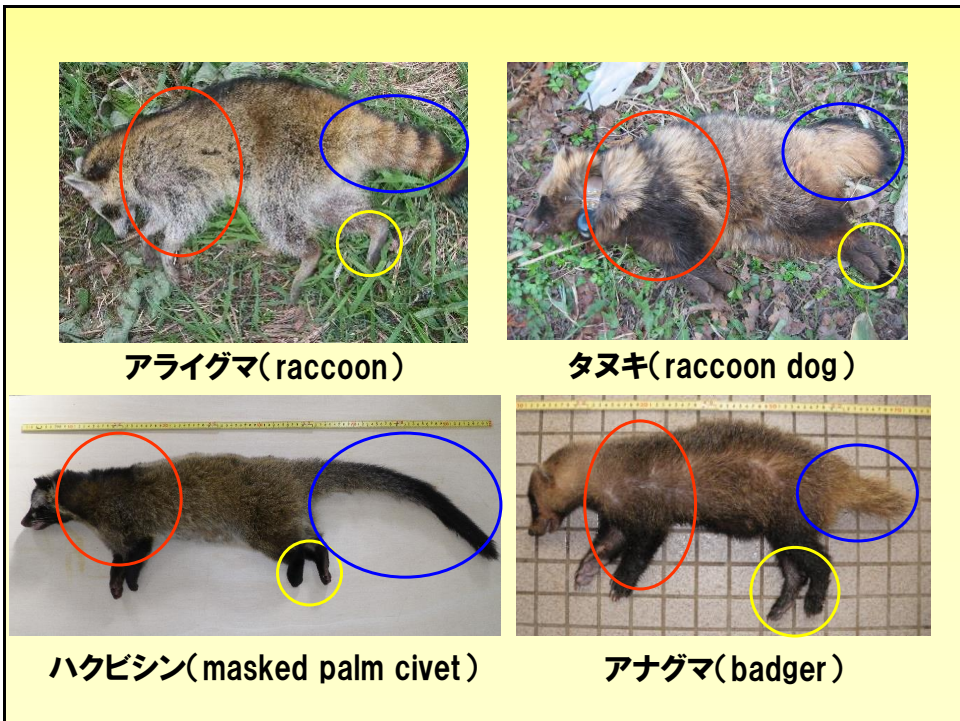
56

(おまけ)
アライグマに似た動物の見分け方

57



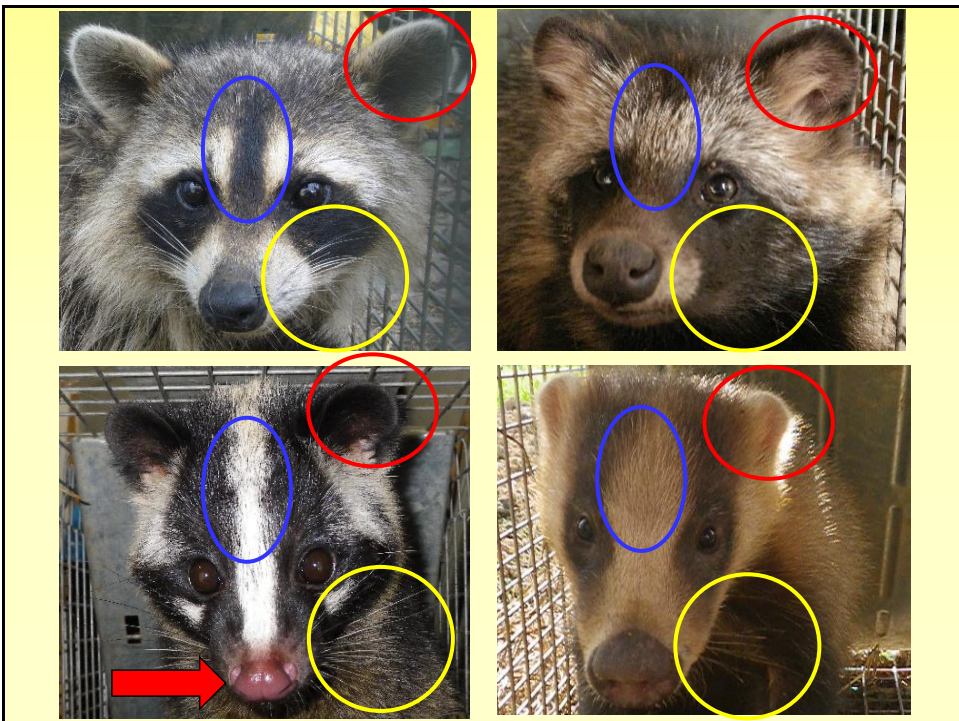
58



59



60



61

ご清聴ありがとうございました